２分割コンパクト６輪電動車いす

ネオ

NEO-PR

共同開発：株式会社今仙技術研究所

最高時速4.5km/h

ＮＥＯ－ＰＲ４５

最高時速6.0km/h

ＮＥＯ－ＰＲ６０

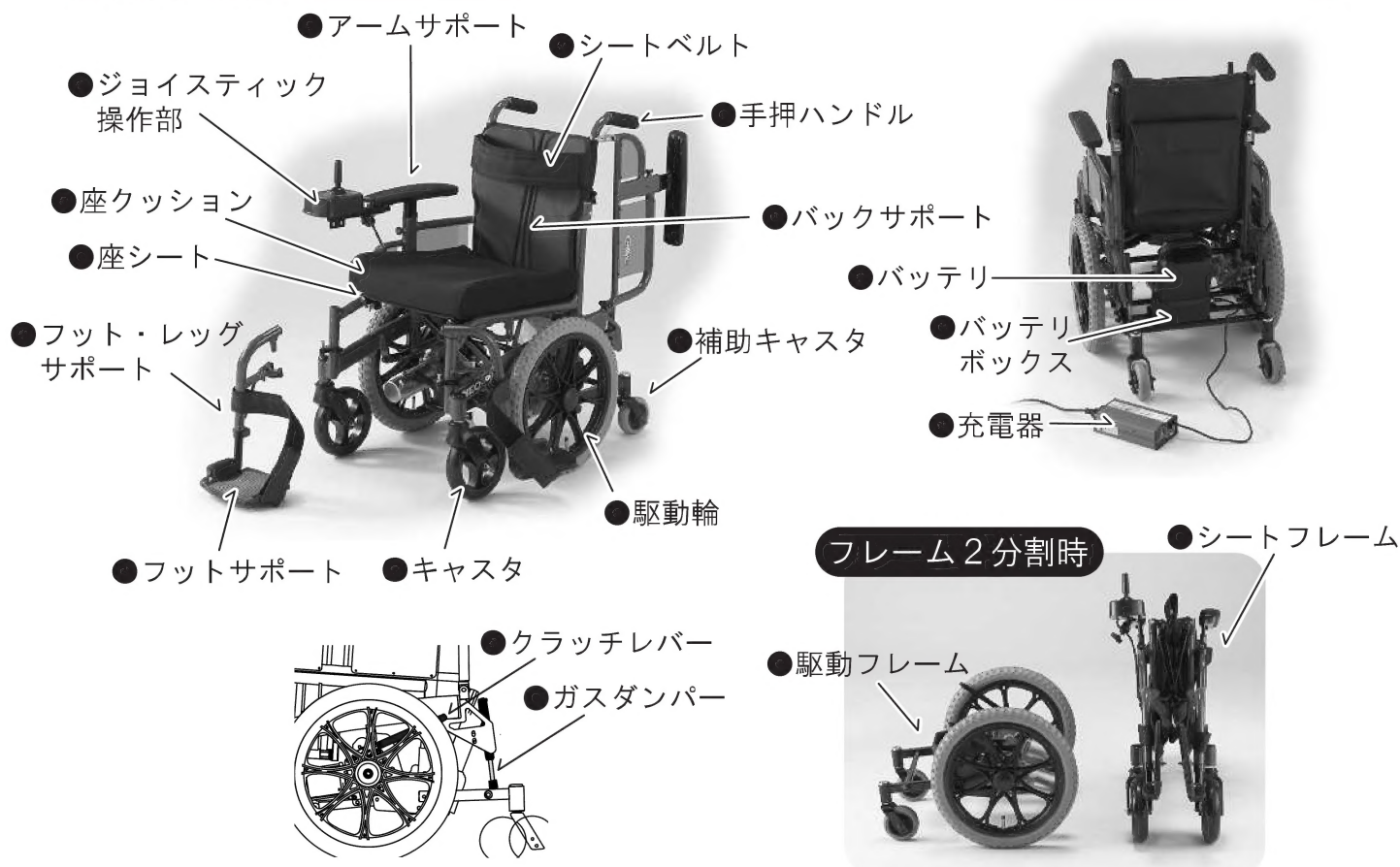
取扱説明書

この度は、製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。
なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。

各部の名称

●アームサポート　●シートベルト　●ジョイスティック操作部　●手押ハンドル　●座クッション　●バックサポート　●座シート　●バッテリ　●フット・レッグサポート　●補助キャスタ　●バッテリボックス　●充電器　●駆動輪　●フットサポート　●キャスタ　●クラッチレバー　●ガスダンパー　●駆動フレーム

フレーム２分割時

●シートフレーム

仕様・サイズ

●全長：104cm　●全高：85cm　●全幅：59cm　●バックサポート高：40cm
●手押しハンドル高：82cm　●シート幅（アームサポート内々）：40cm
●シート奥行：40cm　●アームサポート高：24～32cm（調整式・座クッション厚含む）
●バックサポート角度：90°（背折れ部＋１０°後傾）　●キャスタ：7インチクッション
●駆動輪：16インチ　●補助キャスタ：4インチ
●重量：約29.1kg（バッテリ含む・座クッション含まず）　●耐荷重（積載物含む）：100kg

※上記はシート幅40cm仕様のスペックです。

シンボルマークの説明

当取扱説明書内において、お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、正しい取扱いに関する必要事項を、下記のシンボルで説明しています。

記号	説明
警告	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる危険が生じることが想定される場合を示しています。
注意	取扱いを誤った場合、傷害に至る可能性、または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
禁止	してはいけないことを示しています。

警告

●乗車時は必ず、シートベルトを装着してください。シートベルトを装着しない状態や、シートベルトの位置が適切に調整されていない状態での使用はしないでください。
●各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながることがあります。定期的に取扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
●使用者の体調が著しく低下しているときは、充分に注意して使用してください。
●からだに合わない状態での使用はしないでください。
●各部の調整・調節を行うときは、必ず電源を切り、左右のクラッチレバーを下げて駆動輪がロックされた状態で行ってください。
●走行時には地面に凹凸や障害物がないか充分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
●悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
●エスカレーターの出入り口付近、エレベーター、自動ドア等の付近で使用する際は注意してください。
●踏切りを横断の際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
●手押しハンドルやフレームなどに手荷物等を掛けないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒する恐れがあります。
●フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
●持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。（アームサポートやフットサポート、手押しハンドル、シート、シートベルト等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながる恐れがあります。）
●坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は２輪以上に車止めをしてください。
●本書記載以外の使用はしないでください。
●踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
●子供に操作をさせないでください。
●二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
●フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。（使用を中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。）
●体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
●安全にご使用いただくために、この取扱説明書をよくお読みの上、操作方法と機能についてしっかりと理解してからお使いください。人通りの多い場所、坂道、悪路などへは、十分に運転に慣れてからお出かけください。不慣れな場所では、必ず介助者が同行してください。
●車いすからはなれるときや、車いすに乗り降りするときは、必ず電源を切り、左右のクラッチレバーを下げて駆動輪を確実にロックさせてください。
●製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。

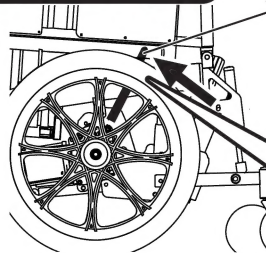
注意

●バックサポートの張り調整が不適切な状態での使用はしないでください。
●周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
●製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
●水にぬれた場合、そのままにしておくと錆びやカビが出ることがあります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
●水をかけたり、水につかるような場所で使用すると、ショートする可能性があり危険です。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。
●気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
●改造や分解はしないでください。

目次

クラッチの切り替えかた

注意 クラッチレバーの切り替えは、必ず電源を切って行ってください。

「手押」操作時

左右のクラッチレバーを上に上げると、クラッチが切れて、駆動輪がフリーになります。介助者が車いすを押して操作する時に利用します。

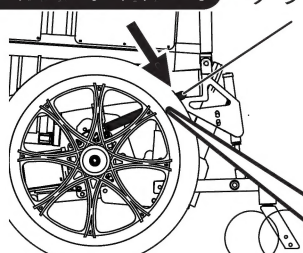
クラッチレバーがとまって、それ以上、上がらなくなる位置まで上げます。

注意

足でクラッチレバーを操作しないでください。必要以上の力で操作をすると、破損する恐れがあります。

警告

- クラッチレバーが、クラッチの入り切りの中間の位置にある状態での使用はしないでください。走行中や、駐停車中にクラッチが突然切り替わる可能性があり、危険です。
- 片側のクラッチを入れ、片側のクラッチを切った状態での使用はしないでください。

「電動」走行時

電源を切って駐車する時

左右のクラッチレバーを下に下げると、クラッチが入り、駆動輪が固定されます。電動で走行する時、及び、電源を切って駐車する時に利用します。

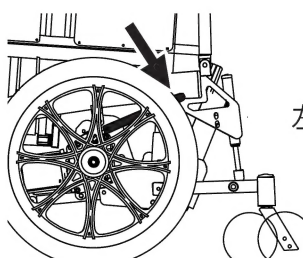
クラッチレバーがとまって、それ以上、下がらなくなる位置まで下げます。

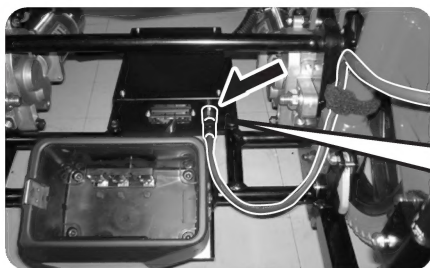
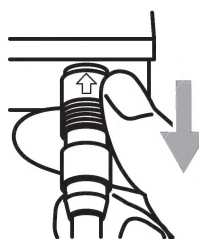
警告

衝突・転倒のおそれがあります。

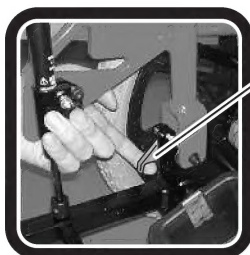
坂道では、クラッチレバーを「手押」位置（レバー上側）で使用しないでください。

フレームの２分割のしかた

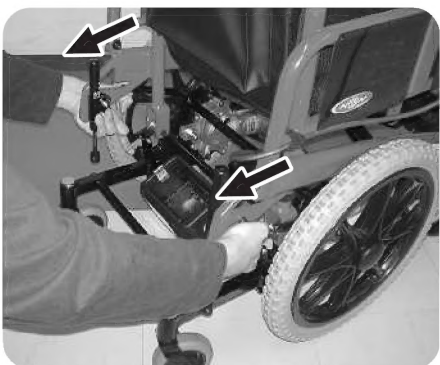
注意 フレームの分割は、必ず電源を切って行ってください。

左右のクラッチレバーを下げて、駆動輪をロック状態にしてください。

2

ジョイスティック操作部のコードと駆動フレームの黒いボックスを接続しているコネクタをはずします。

コネクタの先端部を持って、しずかに引き抜いてください。

注意 コネクタを回したり、先端部以外を持って無理に引っぱったりしないでください。破損のおそれがあります。

3

フレームロックレバー

写真のように、シートフレームとフレームロックレバーに手をかけ、フレームロックレバーを引き上げてください。

4

- フレームロックレバーを引き上げたまま、シートフレームを後方へ少し引きます。シートフレームのローラーが駆動フレームから分離します。
- フレームロックレバーから指をはなし、シートフレームをさらに後方へ引っぱると、フレームを完全に分割できます。

5

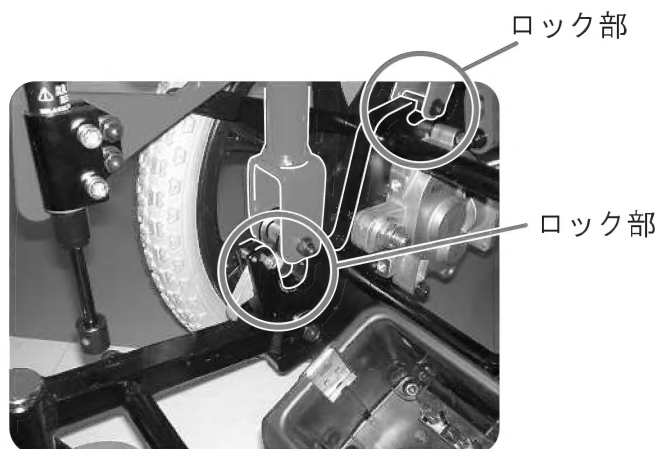
シートフレームの手押しハンドルを持って、シートフレームを持ち上げ、駆動フレームから離れた位置へ移動させて、完了です。

注意 はずしたコネクターにゴミが付着したり、コネクターが水などに濡れたりしないよう、十分注意してください。

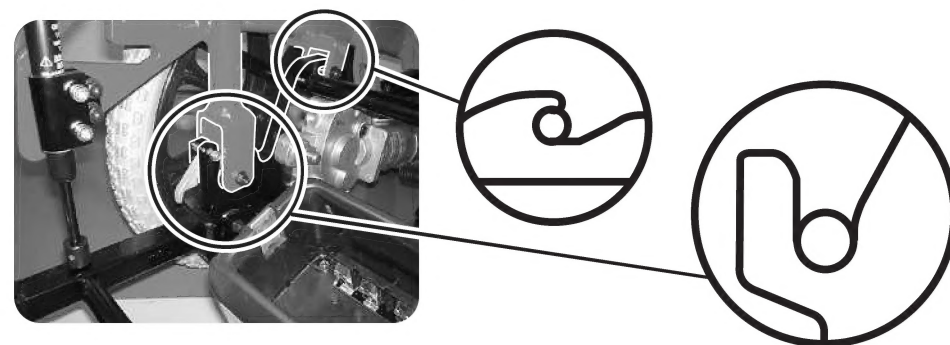
注意 フレームを分割する作業は、各部に手指や体をはさまないよう、十分注意しながら行ってください。

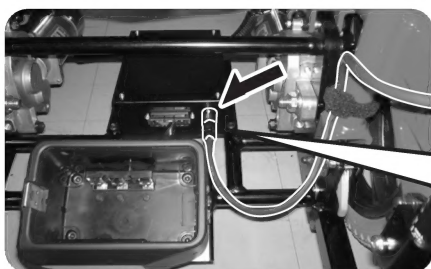
シートフレームと駆動フレームの接続のしかた

1 駆動フレームの左右のクラッチレバーを下げて、駆動輪をロック状態にしてください。

2 シートフレームを駆動フレームの上に移動し、左右計４箇所のロック部に正確に合わせて乗せます。

3

左写真のように、シートフレームを押さえながら前方へ押すと、カチッとロックします。
（手押ハンドルを持って、シートフレームを前方に押して、ロックさせることもできます。）

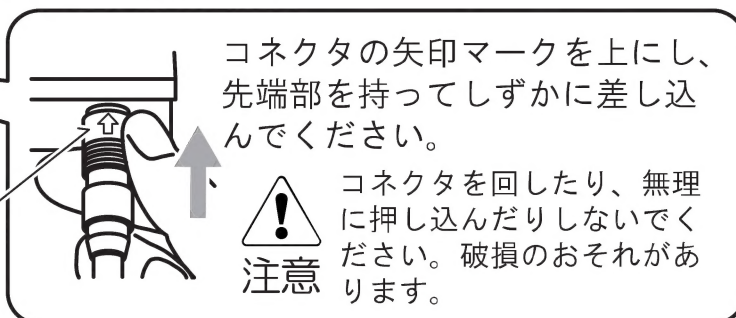
4

シートフレーム左右計４箇所のピンが、上図のようにしっかりとはまっていることを確認してください。

5

ジョイスティック操作部のコードを駆動フレームの黒いボックスに接続します。

コネクタの矢印マークを上にし、先端部を持ってしずかに差し込んでください。

注意

コネクタを回したり、無理に押し込んだりしないでください。破損のおそれがあります。

コネクタの矢印をボックスの△マークに合わせて差し込みます。

6

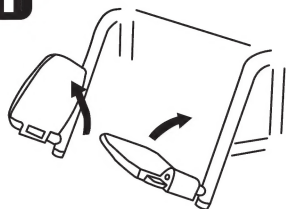
シートフレームと駆動フレームがしっかりと接続されているかどうか、手押ハンドルを持って車いすを持ち上げて確認してください。

注意

- ●フレームの接続は、各部に手指や体をはさまないよう、十分注意しながら行ってください。
- ●フレーム接続時に、コードやコネクターを各部に挟んでつぶしたり、破損したりしないように注意してください。

シートフレームの折りたたみかた

●折りたたみは、座クッションをはずして行います。

1

フットサポートプレートを上方へ回転させて収納します。

2

座シートの、前後中央部を持ち上げます。

3

手押ハンドルを持って、左右から押し縮めるように折りたたんでください。

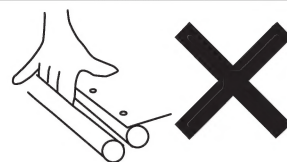
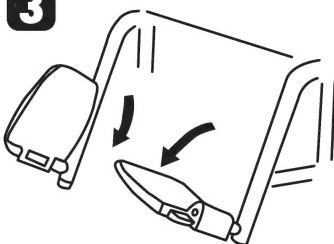
注意

折りたたんだシートフレームを車に積む際などには、ジョイスティック操作部やコードに外力がかかり損傷を受けることのないよう、十分注意してください。

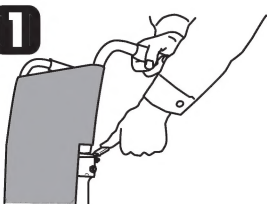
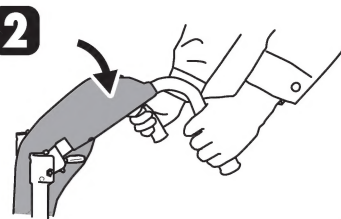
シートフレームのひろげかた

手押ハンドルを持って、軽く左右にひろげてください。

片方の手押ハンドルを持ち上げるように、反対側の座面下のパイプ部を下の方へ押し下げます。

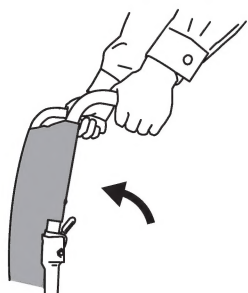
注意

押し下げる際、座面パイプの下側や横側に手や指を入れないでください。危険です。

フットサポートプレートを下方へ回転させるようにセットします。
（シートフレームと駆動フレームを接続した後、使用者が車いすに座ってから行うのが一般的です。）

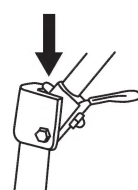
バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

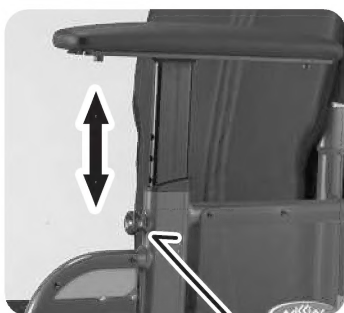
折りたたみかた

手押しハンドルを握り、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。

警告

車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

固定のしかた

手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右のスライドピンが「カチッ」とロックされたことを必ず確認してください。

注意

●矢印の部分に手や指を置かないでください。
●矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。

アームサポート高の調整のしかた

調整用ボタン

●アームサポートを持ち、調整用ボタンを引いて、ロックを解除し、アームサポートの高さをゆっくりと上下させ、高さを調整します。
●調整用ボタンがロックされれば調整は完了です。

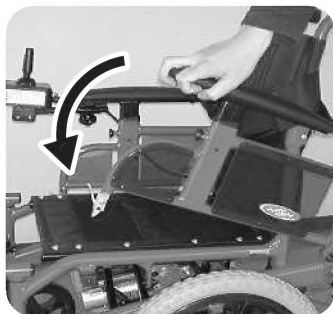
注意

・手指等を挟まないように注意してください。
・アームサポートが調整用ボタンでしっかりと固定されていることを確認してください。

アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた

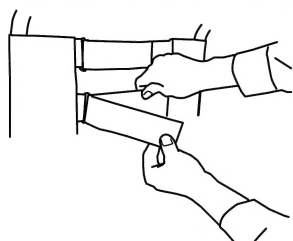
跳ね上げのしかた

アームサポート先端のアームサポート跳ね上げプラグのレバーを後方に倒すと、アームサポートの固定（ロック）を解除することができます。ロックを解除して、アームサポートを上に回転させるように上げてください。

戻しかた

戻すときは、アームサポート跳ね上げプラグを握らずに、そのまま「カチッ」というまでアームサポートを押し下げてください。

注意 警告

- アームサポートの跳ね上げは、電源を切り、左右のクラッチレバーを下げて駆動輪がロックされた状態で行ってください。
- アームサポートを跳ね上げた状態で車いすを動かさないでください。
- 跳ね上げて移乗する際は必ず、アームサポート跳ね上げプラグがバックサポートパイプの前に出ない位置まで跳ね上げてください。
- 戻すときには、アームサポートと座面の間やジョイント部に、身体や衣服が挟まらないように注意してください。

バックサポートの張り具合の調整のしかた

1．バックサポートシートとシートベルトをはずしてください。

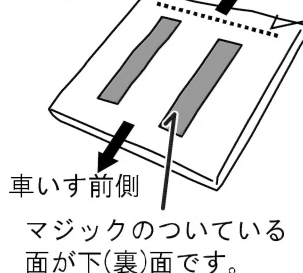
2．任意にマジックベルトを緩めてしっかりとマジックベルトを固定してください。
3．シートベルトを取付けて、バックサポートシートをかぶせて完成です。

警告

- 使用者が乗車した状態で調整する場合、ベルトは必ず一本ずつはずして調整してください。全てはずすと、乗車者が落下しケガをする恐れがあります。
- バックサポートの張り調整は、必ず駐車状態でおこなってください。
- ベルトは５㎝程度たるませるのが限界です。それ以上たるませると、マジックの効きが弱くなり、ベルトがはずれる可能性があります。

座クッションのつかいかた

座上(表)面

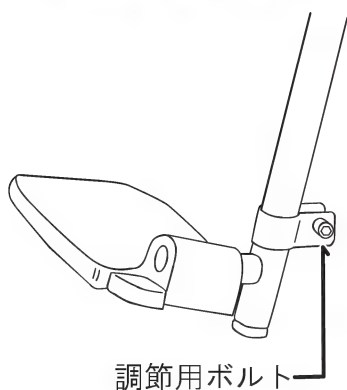
座下(裏)面

車いす後(奥)側

ファスナーのついている方が、車いす後(奥)側となります。

車いす前側

マジックのついている面が下(裏)面です。

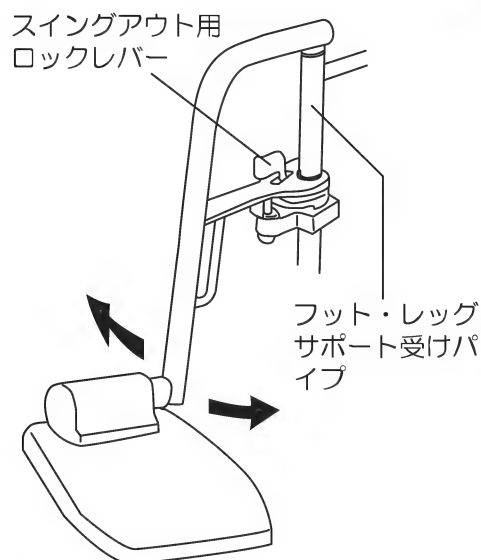
クッション下(裏)面のマジックと座シートのマジックをはり合わせてしっかりと固定します。

フットサポートの高さの調節のしかた

●フットサポートプレートの上にある、調節用ボルトを5mmの６角レンチで緩めて、フットサポートの高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。
（極端に強く締めすぎると、締付けクランプ部品が破損する場合がありますのでご注意ください。）

注意

・調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。（極端に強く締めすぎると、締付けクランプが破損する場合がありますのでご注意下さい。）
・フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部で、地面から５cm程度あったほうが良いでしょう。
・フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。

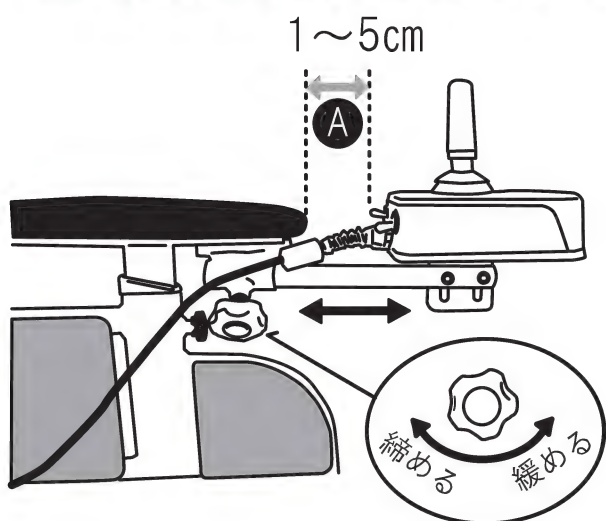
フット・レッグサポートの開きかた・着脱のしかた

開きかた・はずしかた

※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

①スイングアウト用ロックレバーを外側へ押しながら、フット・レッグサポートを外側に開きます。
②フット・レッグサポートを外側へ４５°度程回転させると、フット・レッグサポートを上方に引き抜いて外すことができます。

取付けかた

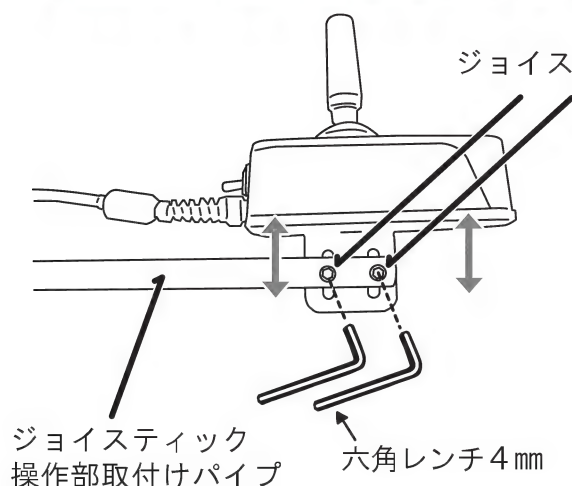
①フット・レッグサポートを外側に４５°程度開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。
②フット・レッグサポートを「カチッ」と音がするまで、内側に向けて回転させてください。

ジョイスティック操作部の前後位置調整のしかた

ジョイスティック操作部のついている側のアームサポートパッド下のノブボルトを緩めると、ジョイスティック操作部の前後位置が調整できます。

●左図 A の寸法（アームサポートパッド先端からジョイスティック操作部電源スイッチ及び速度切り替えスイッチ先端間距離）が１～５cmとなる範囲で調整してください。
●調整後は、ノブボルトをしっかりと締めて、ジョイスティック操作部が確実に固定されていることを確認してください。

注意

●上記 A 寸法の条件は必ずまもってください。
●ノブボルトがしっかりとしまって、ジョイスティック操作部がしっかり固定されていることを確認してください。
●ジョイスティック操作部の前後位置調整時にコードに無理な力がかからないように注意してください。

ジョイスティック操作部の角度・高さの微調節のしかた

ジョイスティック操作部の下部プレートと、ジョイスティック操作部取付けパイプをとめている、２本のジョイスティック操作部位置微調節用ボルトを４㎜の六角レンチで緩めると、ジョイスティック操作部の角度と高さの微調節ができます。

調整後は、２本のジョイスティック操作部位置微調節用ボルトをしっかりと締めて、プレートを固定してください。

注意

- ２本の位置微調節用ボルトがしっかりとしまって、ジョイスティック操作部がしっかりと固定されていることを確認してください。
- ジョイスティック操作部の角度・高さ位置調節時にコードに無理な力がかからないように注意してください。

ジョイスティック操作部の説明

各部のはたらき

■電源スイッチ
上段：電源「入」　下段：電源「切」

■速度切り替えスイッチ
上段：高速　中段：中速　下段：低速

■操作レバー
倒す方向で進行方向、倒す角度で速度を操作します。

■バッテリメーター
バッテリ残量が表示されます。
※次頁「バッテリ容量とバッテリメーターおよび走行状態の関係」参照

■表示器
標準時は設定速度（km/h）が表示されます。

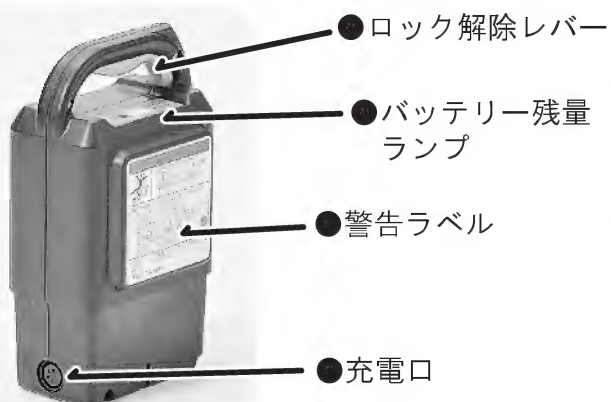
■ブザースイッチ
押している間ブザーがなります。

注意

- 電源スイッチが「入」の状態で、無線・携帯電話等の使用をしたり、理学療法士の治療を受けるなどしないでください。
- 機器の故障や誤動作の恐れがありますので、水のかかるところや、濡れた手で使用したり、操作レバーを改造したりしないでください。
- 誤動作の恐れがありますので、磁石など磁力の強いものをジョイスティック操作部に近づけないでください。

バッテリ容量とバッテリメーター及び走行状態の関係

容量（%）	バッテリメーター ●点灯　○消灯　★点滅	走行状態	表示器など
100　～　80	●●●●●●●●	標準速度	設定速度を表示
	●●●●●●●○		
80　～　60	●●●●●●○○		
60　～　40	●●●●●○○○		
	●●●●○○○○		
40　～　20	●●●○○○○○		
20　～　10	●●○○○○○○	速度 1／2	設定速度を表示 ※警告ブザー１秒
10　～　0	●○○○○○○○		設定速度を表示 ※警告ブザー２秒
0 以下	★○○○○○○○	停止	「Ｅｄ」表示 ※警告ブザー３秒

バッテリの説明

各部のはたらき

■充電口
充電器の先端コードを差し込んで充電します。
※差し込み向きにご注意ください。

■ロック解除レバー
バッテリーをバッテリーボックスから引き抜くときに握りこんでロックを解除します。

■バッテリー残量ランプ
５灯のＬＥＤを使用し、現在のバッテリー残量を表示できます。充電中は点滅表示により充電の進行を確認できます。

警告

バッテリは使い方を誤ると、機器の損傷や火災・事故を引き起こすことがあります。以下のことを必ずお守りください。

●火の中に入れたり、加熱しない。
●強い衝撃を与えたり、分解や改造をしない。
（ケースが破損した場合は絶対に使用しない。）
●水の中に入れたり、濡れた手で触らない。
●ＮＥＯ－ＰＲ以外の機器に使用しない。
●人工呼吸器等の生命維持装置の電源に使用しない。
●充電は専用充電器で行うこと。
●各端子を工具や金属物などで接続しない。
●走行中にバッテリをバッテリボックスから抜かない。

バッテリ取扱いの注意事項

注意

●バッテリの寿命は、使用場所、使用時間によって大幅に異なります。
●バッテリを交換する場合は、純正のＮＥＯ－ＰＲ用バッテリをご使用ください。
　ニッケル水素電池　ＤＣ２４Ｖ　９．０ＡＨ
●バッテリを使用せずに長期保管する場合は、満充電にしてから高温になる場所を避けて保管してください。
●バッテリは使用していない時でも残量は少しずつ減っていきます。（自己放電）
使用しない時でも、２～３週間に一度は充電をしてください。
●充電口、及びバッテリの金属部分には金属製のものを近づけないようにしてください。また、異物がある場合は、取り除いてください。
●使用済みのバッテリは、リサイクル致します。そのまま廃棄せず、販売店までご連絡ください。

Ni-MH

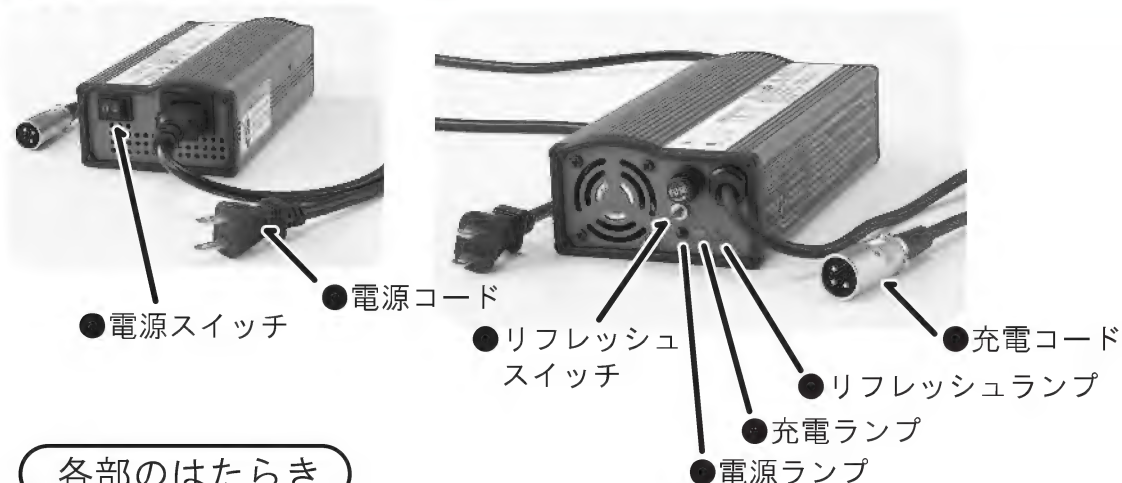
バッテリのバッテリボックスへの装着のしかた

●バッテリボックスに異物がないことを確認してください。

●車いすを後方から見たときにバッテリの「ＩＭＡＳＥＮ」の刻印が見える向きで、バッテリをしずかにバッテリボックスに奥までしっかりと差し込んでください。

注意

●装着後、バッテリがバッテリボックスにしっかりと固定されていることを確認してください。
●向きを間違えたり、スムースに入らない角度で無理にバッテリを押し込んだりしないでください。

充電器の説明

各部のはたらき

■電源スイッチ
充電器本体の電源スイッチです。<記号>　○：切　ー：入

■電源コード
家庭用コンセントに差し込みます。（ＡＣ９０～２４０Ｖ　５０／６０Ｈｚ対応）

■リフレッシュスイッチ
充電中にスイッチを押すと【リフレッシュ放電（下記参照）】を開始します。

■充電コード
バッテリの充電口に差し込みます。※差し込み向きにご注意ください。

■電源ランプ
充電コードをバッテリの充電口に差し込むと点滅・点灯します。
点滅（オレンジ色）：待機中
点灯（オレンジ色）：充電中
点灯（　緑　色　）：充電完了

■リフレッシュランプ
リフレッシュ放電中に点灯（黄色）します。

リフレッシュ放電

ＮＥＯーＰＲのバッテリは、ニッケル水素電池を使用しています。「走行距離が短くなった」などの状態になりましたら、メモリー効果※の影響による場合があります。一度以下の手順で充電を行ってください。

●メモリー効果の除去方法

１．次頁「充電のしかた」の手順（１～４）に従って充電を開始します。
２．充電が開始されたら、すぐにリフレッシュスイッチを押します。
３．充電ランプ（オレンジ色）が点滅し、リフレッシュランプ（黄色）が点灯します。
４．リフレッシュ放電後、自動的に充電が開始されます。
（注意）満充電の状態からリフレッシュ放電を行いますと、最大１８時間が必要です。できるだけバッテリ残量が減った状態からリフレッシュ放電を行うようにしてください。

※メモリー効果・・・バッテリの残量が充分に残っている状態で充電することを繰り返すと、バッテリの容量が見かけ上、少なくなったような状態になる現象です。

警告

感電のおそれがあります。濡れたプラグや、濡れた手で
充電しないでください。
つぎのような場所では充電しないでください。
●雨露を受ける場所　●湿気の多い場所

充電器の分解や改造は、故障や火災の原因となりますので
絶対にやめてください。

充電のしかた

1．左右のクラッチレバーを下げて、電源スイッチを「切」にし、駐車状態にしてください。
2．バッテリ単体で充電する場合は、バッテリのロック解除レバーを握りながら、バッテリをバッテリボックスからしずかに取り出します。
3．充電器の電源コードを家庭用コンセントに差し込み、充電コードをバッテリの充電口に差し込んで、充電器の電源スイッチを「ー」（入）にします。
※バッテリをバッテリボックスに装着したまま充電する場合は、バッテリボックス右側面のフタを回転させると、充電コードをバッテリの充電口に差し込むことができます。
4．充電器の電源ランプ（赤色）が点灯します。充電ランプ（オレンジ色）が５回点滅した後に点灯し、充電中であることを表示します。
5．充電が完了しましたら、２～３の逆の手順で充電を完了します。

■充電ランプの表示色と充電状態

充電ランプ	状態	意味
オレンジ色	充電中	充電途中です
緑色	充電完了	満充電です
オレンジ色 （点滅）	充電待機	バッテリの温度が充電範囲外※です。 または、リフレッシュ放電中です。

※充電範囲外
バッテリ保護のため、バッテリ温度が０～45℃の範囲外の場合は、充電を開始せずに待機状態となります。適温になりましたら自動的に充電を開始します。

注意

充電が終了しましたら、必ず充電コードを抜くか、充電器の電源スイッチを「○」（切）にして充電を終了してください。
長時間（１２時間以上）、充電をしたままにしないでください。バッテリの寿命が短くなることがあります。

電源コードや充電コードは、必ずプラグ部分を持って引き抜いてください。コード部分を持ちますと断線の原因になります。

充電についての注意事項

 注意

- 購入後、初めてご使用になる前に必ず充電をしてください。
- 必ず専用のバッテリと充電器をご使用ください。
- 充電する時は、必ず車いすの電源スイッチを「切」にしてください。
  ※充電中、車いすの電源スイッチを「入」にしても走行できません。
- 雷時は、直ちに充電を中止し、電源コードのプラグを家庭用コンセントから抜いてください。
- 充電時間は、バッテリの放電状態によって異なります。（最大６時間）
- 長期間ご使用にならない場合でも２～３週間に一度は充電してください。
- 冬場など気温が低い場所（０℃以下）では充電することができません。０℃以上（４５℃以下）の風通しの良い室内で充電してください。
- 夏場など気温が高い場所で走行した直後のバッテリは高温になりますので、充電の前に適温まで自然に冷ましてください。
- 各所コネクタが正しく差し込まれていないと充電できません。充電コードは、充電口の奥までしっかりと差し込んでください。
- バッテリや充電器に衝撃を与えたり、落とさないでください。
- 充電器やバッテリの上に物を置かないでください。
- 充電中は、充電器やバッテリが４０℃以上の高温になることがあります。触れないようにしてください。

運転及び操作のしかた

運転前の確認事項

１．シートフレームと駆動フレームが正しく接続されていることを確認します。（Ｐ７～８参照）
２．左右のクラッチレバーが下がっている（「電動」の位置になっている）ことを確認します。
３．ジョイスティック操作部の電源スイッチがか「切」になっていることを確認して、バッテリをバッテリボックスに装着します。
　※バッテリボックスに異物がないことを確認し、奥までしっかりと差し込んでください。
４．充電コードがバッテリの充電口に差し込まれていないことを確認します。
５．ジョイスティック操作部の電源スイッチが「切」であることを確認します。
６．車いすに乗車します。

運転時の操作手順

１．バッテリがバッテリボックスに正しく装着されていることを確認します。
２．ジョイスティック操作部の電源スイッチを「入」にし、バッテリメーターが６灯以上点灯していることを確認してください。
３．速度切り替えスイッチで速度を選択してください。
４．ジョイスティック操作部の操作レバーをゆっくり倒してください。
　・前に倒せば前進、後ろに倒せば後進します。
　・左右に倒せばその方向に旋回します。
　※電源スイッチを「入」にしたときに操作レバーが倒れていると安全装置が働いて走行できません。操作レバーを中央の位置に戻してから電源スイッチを「入」にしてください。
５．停止させるには、操作レバーを中央の位置に戻してください。電磁ブレーキがかかり停止します。
６．車いすから降りる場合は、電源スイッチを「切」にしてください。
７．車いすを介助者に押してもらう場合は、左右のクラッチレバーを上げて（「手押」の位置にして）ください。

運転時の注意・警告事項

●走行中電源スイッチを「切」にすると、急停止しますのでしないでください。
●無線・携帯電話等を使用するとき、あるいは理学療法の治療を受けるときは、クラッチレバーを下げ（「電動」の位置にし）、電動車　いすの電源スイッチを「切」にし、駐車状態にしてください。
●電動車いすは、道路交通法上（第２条ー３項ー１号）歩行車として扱われます。歩行車としての交通ルールを守って安全運転を心がけてください。
●歩道を走行し横断歩道を渡ってください。歩道のないところは、右側通行してください。
●斜め横断はしないでください。
●横断歩道では、一旦停止して安全を確認してください。
●スイッチ、操作レバーの操作は、ていねいにおこなってください。また、衣服を引っかけたり、強い衝撃をあたえないようにしてください。
●二人乗りやけん引はしないでください。
●使用者最大体重（積載物含む）が100kgを超える場合は走行をしないでください。
●スイッチ操作をするときは、必ず停止しておこなってください。
●走行中、子供やペットを電動車いすに近づけないでください。
●制動距離は条件によって変わります。停止操作は余裕を持っておこなってください。
●屋内では、他の人に迷惑をかけないように必ず低速で走行してください。また、人通りの多い歩道も必ず低速で走行してください。
●後進時は、後方の人や障害物を充分確認し走行してください。
●電動車いすが何かにぶつかったまま操作レバーを倒し続けるのは故障の原因になりますのでやめてください。
●車体から、身体の一部をはみ出さないでください。
●衣服等が車輪にからまないよう、充分注意してください。
●駐停車は坂道を避け、必ず平地でおこなってください。
●駐車するときは、クラッチレバーを「電動」の位置にし、電源スイッチを必ず「切」にして、子供等がふれないようにしてください。
●運転に慣れるまで、安全な広い場所で充分練習してください。
●高圧線やテレビ塔など強い電磁波が出ている場所での走行は避けてください。
●次のような場所や状況下での走行は回避するか、介助者に同行してもらってください。
※人混み、交通量の多い道路、踏切、砂利道、でこぼこ道、防護柵のない道路の路肩、夜間走行、雨天、ぬかるみ、雪道、凍結路、濃霧、強風時、道幅の広い道路の横断歩道、狭い道、大きな段差や深いくぼみなど。

走行距離について

●走行距離は、約１５kmです。（算出条件等につきましてはＰ21「諸元・性能」を参照してください。）
●走行距離は、走行状況によって変わります。坂道や悪路など電気を多く消費する場所を走行しますと短くなります。
●バッテリは消耗品です。使用しているうちに働きは徐々に低下し、走行距離は短くなります。
●冬場など気温の低い場所でご使用された場合の走行距離は、短くなります。
●同じような使いかたをしていても、バッテリメーターの減り具合が早くなってきたり、走行できる距離が次第に短くなってきた時はバッテリの交換時期と思われます。そのまま使用しつづけますと急激に走行距離が短くなる場合があります。早めに新しい専用バッテリに交換してください。

使用前点検（必ず行ってください）

●ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
●シート・ベルト類・シートベルトに亀裂や破れがないかご確認ください。
●駆動輪タイヤの空気圧は適切かどうかご確認ください。（不足している場合は補充してください）
●駆動輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、チューブがパンクしていないかご確認ください。
●駆動輪の車軸のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
●キャスタ輪及びキャスタフォークに変形、亀裂等がないかご確認ください。
●各部パーツの変形、破損がないかご確認ください。

警告　製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調節をご依頼ください。

メンテナンス

●ボルトの緩み、フレームのガタ、タイヤの空気圧の減少など目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
●各部のメンテナンス（調節・補修・修理・部品交換等）はお買い上げの販売店にご依頼ください。
●部品交換時は、必ず純正部品を使用してください。

禁止
●電動モーター、制御装置、操作部は電気部品をたくさん使用していますので、水洗いは絶対にやめてください。
●ガソリン・シンナー・ワックス等でふかないでください。

保管方法

●シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後固くしぼった布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
●直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けて下さい。
●保管するときは、クラッチレバーを「電動」の位置にし、電源スイッチを必ず「切」にして、子供等が触れないようにしてください。
●屋内の湿気が少ない場所に保管してください。雨に濡れたり、湿気の高いところには保管しないでください。

不具合時チェックリスト

調子が悪いときは、以下の項目を調べてみてください。それでも問題が解消しない場合は販売店にご連絡ください。

症状	確認事項	対処方法
動かない	バッテリが切れていませんか	充電するか、交換してください
	バッテリが正しく差し込まれていますか	正しく差し込んでください
	クラッチは「電動」になっていますか	左右「電動」にしてください
	充電コードのプラグがバッテリに差し込まれていませんか	充電コードのプラグをバッテリから抜いてください
	操作レバーを倒したまま電源を「入」にしていませんか	操作レバーを中立位置に戻してから電源を「入」にしてください
	駆動フレームが正しく車いすと接続されていますか	「シートフレームと駆動フレームの接続のしかた」に従って接続してください
	ジョイスティック操作部のコネクタが正しく駆動フレームに接続されていますか	コネクタを接続してしてください
速度が遅い	車いすのタイヤの空気圧は適正ですか	タイヤに空気を入れてください
	バッテリ残量ランプが「要充電」になっていませんか	充電してください
バッテリの減りが早い	バッテリが温かくなっていませんか	走行した直後はバッテリの温度が上がっています。充電が中断されることがあります。少し時間をおいて、自然に冷却してから再度充電を行ってください
	バッテリは１年以上使用していますか	バッテリを交換、もしくはリフレッシュ放電を行ってください
振動する	タイヤがパンクしていませんか	タイヤ・チューブを交換してください
	駆動輪の取付けナットがゆるんでいませんか	販売店にご連絡ください
	ガスダンパーやキャスタ・補助キャスタの取付けボルトやナットがゆるんでいませんか	販売店にご連絡ください

症状	確認事項	対処方法
充電しない	充電中ランプが点滅していませんか	バッテリの温度が適正になるのを待ってから充電してください
	コンセントに正しく差し込まれていますか	正しく差し込んでください
	充電器の電源スイッチが「切」になっていませんか	「入」にしてください

諸元・性能

機種名		ＮＥＯ－ＰＲ４５	ＮＥＯ－ＰＲ６０
タイヤ（後輪）サイズ		１６インチ（３９６．５㎜）	
速度 (km/h)	前進	高速４．５ 中速３．５ 低速２．５	高速６．０ 中速４．５ 低速２．５
	後進	前進速度の１／2	
重量（kg） ●バッテリ含む ●座クッション含まず	全体	約２８．７	
	駆動フレーム	約１６．５	
バッテリ		ニッケル水素電池　ＤＣ２４Ｖ　９．０Ａｈ	
駆動方式		後輪直接駆動	
制動方式		モータ発電　及び　電磁ブレーキ	
駆動モータ		３０分定格出力　ＤＣ２４Ｖ　１００Ｗ×２	
充電器	電源	９０～２４０Ｖ　５０／６０Ｈｚ　１７０ＶＡ±１５％	
	充電時間	最大６時間	
	付加機能	リフレッシュ放電機能　０．５Ａ	
連続走行距離 (km/h)		１５	
		算出条件：電動車いす JIS9203:2006　11.1.13項(1)式による 常温25℃、乗車重量75kg、最高速度、バッテリ新品満充電、 平坦路直進連続走行時	
実用登坂角度（度）		６	
使用者最大体重（kg）		１００以下（積載物含む）	

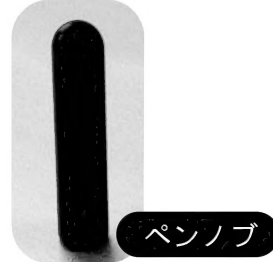
※製品の改良のため予告なく諸元・性能を変更することがあります。

操作・入力装置オプションのご案内

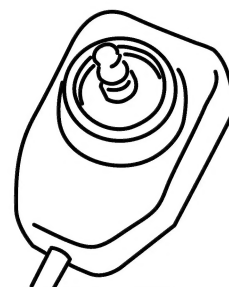
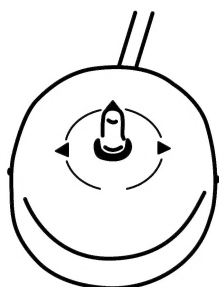
ＮＥＯ－ＰＲ用として、操作入力に関するオプションを多数用意しております。
詳しくは販売店までお問い合わせください。

注意　オプション類の取付けや調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

●オプションパーツの例

小ノブ　チンノブ　Uノブ　太長ノブ

十字ノブ　こけしノブ　球ノブ　ペンノブ

スイングアーム（操作部含まず）

チンコントロールアーム（操作部含まず）

多様入力コントローラー用小型ジョイスティック

多様入力コントローラー用フォースセンサ

多様入力コントローラー用非常停止スイッチ

多様入力コントローラー用簡易１入力

保証規定

Ⅰ．　保証の範囲

1．保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2．保証期間はお買い上げ後１年間です。
3．但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
　（ａ）取扱い過誤による故障。
　（ｂ）製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含みます。
　（ｃ）天災、地変等による故障ならびに損傷。
　（ｄ）消耗部品、タイヤなど。
　（ｅ）保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
　（ｆ）保証書のご提示がない場合。
4．以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
5．この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

Ⅱ．　サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

Ⅲ．　ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「１年間」無償にて修理致します。

機　種			
お客さま ご住所	〒		
（フリガナ）ご氏名			
お買上げ日	年　月　日	保証有効年月日	年　月　日まで
販売店			
製造元	日進医療器株式会社 〒481-8681　愛知県北名古屋市沖村権現３５－２ ＴＥＬ　<0568>21-0635（代）　ＦＡＸ　<0568>23-2787		

日進医療器株式会社

本　　　社　〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現３５番地の２
ＴＥＬ＜0568＞21-0635(代)　ＦＡＸ＜0568＞23-2787
東京営業所　〒112-0002 東京都文京区小石川　１－２１－１４
ＴＥＬ＜03＞3814-0923(代)　ＦＡＸ＜03＞3814-4644
大阪営業所　〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里　６－１６－１０
ＴＥＬ＜06＞6323-8265(代)　ＦＡＸ＜06＞6326-2554
九州営業所　〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町2丁目3-8
ＴＥＬ＜092＞513-5036(代)　ＦＡＸ＜092＞513-5038

2013.10.4 第６版　HS-374